

平成31年度(令和元年度) 唐津市立湊中学校 学校評価結果

1 校訓 み 自ら学び な 仲間を愛し 共 に高め合う	2 学校教育目標 他者を尊重し、21世紀を共に逞しく生き抜く力を育てる
3 今年度の重点目標 (1)授業・進路指導の充実によって確かな学力を育み、生徒の進路保障を図る。 (2)教育活動全体を通して豊かな心を育み、生徒の人的成長を図る。 (3)学校体育・学校保健等の充実によって健やかな体を育み、生徒の逞しい成長を図る。	

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込

達成度について A・・・十分達成 B・・・おおむね達成 C・・・やや不十分 D・・・不十分

3 目標・評価

①授業・進路指導の充実によって確かな学力を育み、生徒の進路保障を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)
教育活動	●志を高める教育	生徒が自分自身の夢・進路目標を持ち、その実現のために努力しようという意識を高めたか。	・「自分の夢や進路目標を持っている」とする生徒を90%以上にする。 ・進路希望を達成する3年生の割合を100%とする。	・こまめな個人面談等の実施によって、生徒個々の能力・適性に応じた進路指導を充実させる。 ・高校における学科の特徴などの情報提供や職業体験等を通して、生徒の進路意識を高める。	B	・「自分の夢や進路目標を持っている」と回答した生徒は79%だったが、7月調査時より8ポイント上昇しており、ある程度の成果は出ている。 ・本評価記入時点で3年生全員が私立高校への合格を決めている。	・生徒アンケートの「学校は目標の実現に必要な情報提供やアドバイスをしている」の項目には92%の生徒がプラスの評価をしている。それが生徒の具体的な目標の達成につながるよう、働く人や高校で学ぶ先輩に出会わせるなど、内容を深化、工夫したい。	総務 進路指導
教育活動	●学力向上	授業改善等を通して、生徒の学力が向上したか。	・知識や技能の確実な定着、主体的・対話的で深い学びの向上、学びへの力を養う授業改善等を通して「自分の学力が伸びている」とする生徒を93%以上にする。	・唐津市学力向上アクションプランに沿って全職員が取り組むと共に、小学校との連携を図ることで、効果的に日常の授業改善を図り、生徒の学力向上に繋げる。 ・放課後補充学習「みなとタイム」と定期試験直前の対策を充実させ、基礎学力の向上をはかる。	B	・学校評価アンケートで、「授業に意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒は96%を超えていたが、「自分の学力が伸びている」と回答したのは80%だった。また、県の学習状況調査の数学の結果は着しい向上が見られた。生徒司会やグループワークが効果的に機能した成果だと考える。生徒の学習意欲を活かして、生徒が達成感を感じる確かな学力の定着をすることが教師に求められている。	・本年度実践した「生徒の学習意欲を喚起する導入の工夫」は継続して取り組み、来年度は、授業のまとめを効果的にする手立ての研修を深めていきたい。生徒が学んだことを活かして、問題を解決し達成感を感じる授業を構築していきたい。	研究
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の推進	ICT活用によって授業での学習意欲は向上したか。	・ICTを活用した授業改善によって、「ICTを活用した授業で学習に対する意欲が高まった」とする生徒を90%以上にする。	・生徒がICTを活用して情報発信できる場面を授業の中で取り入れる機会を昨年度より増やす。 ・各教科の授業、総合的な学習の時間や学校行事等の中で、電子黒板等のICT機器を活用することによって、生徒の関心や理解度を高める。	B	・学校評価アンケートで、「電子黒板を使った授業で学習意欲が高まったと思う」と回答した生徒は81.1%だった。目標値には至らなかったが、7月の調査では67.9%だったので、年間を通して継続的な授業実践によって、生徒の学習意欲の喚起に大きな役割を果たしていることが窺える。	・来年度も、電子黒板を中心としたICT機器を取り入れた授業実践を継続していく。その際、生徒がICT機器を操作して説明する場面を設定することを意識していく必要がある。また、可能な限り機器の刷新・スペック向上に取り組み、ICT機器を使用しやすい環境整備に努めていく。	情報
学校運営	○小中連携	効果的な小中連携を推進することができたか。	・生徒指導・学習指導・保護者や地域との連携に効果的な小中連携に取り組むことを通して、小中連携が湊地区の教育に有効だとする教職員を90%以上にする。	・小学校での実践を活用し効果的に授業改善に繋げる。 ・小中合同研修会等を通して児童・生徒の共通理解を深める。 ・小学校への出前授業を計画的に行い、児童の中学校教育への理解と安心感を深めさせる。 ・小学校6年生を対象とした入学説明会を工夫する。更に、小中交流活動を取り入れる。	A	・小6、中1の交流会や出前授業などで中1ギャップの解消に努めた。また、授業改善を進めるうえで、小学校の児童司会を参考にするなど相互参観も成果を上げている。 ・「小中連携は湊地区の教育に有効である」と捉えている教職員は100%であり、全職員が小中連携の意義を理解し、その取組を行うことができた。	・小中相互の授業参観や小中連携の研修会が、9年間を見通した児童・生徒の成長につながるように、さらにその内容を工夫・改善していく。 ・小学校6年生を対象とした入学説明会を更に魅力的なものにする。また、小学校への出前授業を計画的に行い、児童の中学校教育への理解と安心感を深めさせる。	教務

②教育活動全体を通して豊かな心を育み、生徒の人的成長を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)
教育活動	●心の教育	挨拶・ボランティア活動・清掃活動に積極的に取り組むことができる生徒を育成できたか。	・朝の挨拶運動・朝のボランティア清掃等の生徒の参加率を80%以上にする。	・毎週の生徒会ボランティア、神島・湊漁港周辺・立神岩周辺・屋形石・湊神社周辺の清掃ボランティア等を通して、地域へ貢献する機会をつくる。 ・保護者や地域への周知を行い、ふれあう機会を創出する中で連帯感や達成感を味わわせる。 ・生徒会を中心にアイデアを出し合い、挨拶運動やボランティアへの参加率を向上させる。	B	・「朝のあいさつ運動や毎週の生徒会ボランティア、地域での清掃ボランティア等は、思いやりや心の成長に役立っていると思う」と捉えている生徒は94.3%であった。また、保護者の89.3%が学校の取組を評価している。 ・挨拶運動の参加率はほぼ目標を達成している。本年度は、朝の生徒会ボランティアの質の向上を目標にしたが、まだまだ意識改革ができていない生徒が多い。	・朝の挨拶運動・朝の生徒会ボランティア、地域清掃ボランティア等を今後継続して実施し、思いやりの心の成長に役立てる。 ・生徒の活動について、保護者や地域の方々に理解し、協力してもらうことで、地域や保護者との連帯感や達成感を味わわせる。 ・生徒主体のボランティア活動になるよう、生徒会を中心にアイデアを考えさせる。そして、挨拶運動やボランティアへの意義ある活動に昇華させる。	生徒会
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくりができたか。	・先生はいじめに対応してくれると回答した生徒を85%以上にする。	・生徒の人權感覚を醸成するために生徒達自身の意識を高める取組と仲間づくりを進める。また、道徳や生活等において人權感覚醸成に資する題材を定期的に取り扱うことを通して、いじめの予防に努める。 ・生徒に関しては、毎月の生活アンケートや学活ノート・日々の観察や教育相談等により問題の早期発見に努める。 ・保護者に対しては、保護者アンケートや面談等の機会を利用して情報収集と連携に努める。	A	・それぞれの学級において日頃の教育活動全体で仲間づくりや、人權意識を高める取組がなされている。何か気になることがあれば、日常的に全職員で情報交換を行い情報の共有している。 ・「先生はいじめに対応してくれる」と思っている生徒は、94.3%であった。また、保護者の95.6%が学校の取組を評価している。 ・毎月の生活アンケートを実施して、情報の収集を行っているが、特に問題は見られなかった。	・人權感覚を醸成するために、今後も教育活動全体で取り組んでいきたい。 ・人權講座なども取り入れていきたい。 ・今後も生活アンケートや教育相談などで問題の早期発見に努めていきたい。 ・保護者に対しては、学級懇談会や面談等の機会を利用して情報収集や連携を今後も行っていきたい。	生徒指導
教育活動	○特別支援教育の充実	生徒個々の状況に対応したための細かい支援ができたか。	・配慮を要する生徒等に対し、「きめの細かい支援ができた」とする教職員を90%以上にする。	・配慮を要する生徒をはじめ生徒個々の状況を把握し、教職員間の情報・課題意識の共有に努める。 ・必要に応じて支援計画を策定し、教職員共通理解の下、生徒に寄り添った支援を行う。 ・授業については、必要に応じてルーム等による個別の対応を行い、学力保障・進路保障を図る。	A	・配慮を要する生徒等に対し、きめ細かい指導ができていた「あてはまる」だった生徒は90%を超えた。 ・貸出冊数は昨年度を上回り、読書に親しむ生徒が増えた。 ・生徒会図書部の「図書館祭り」等の活動を通して図書室に足を運ぶ生徒が増えた。	・配慮を要する生徒にきめ細かい対応ができるよう、職員会議、生徒指導協議会、特別支援教育打ち合わせ会等で情報交換や課題意識の共有を図る。	特別支援教育
教育活動	○立腰・読書活動	立腰に取り組むと共に、読書に親しむことを通じて落ち着いた学習・生活環境を創造できたか。	・「立腰や朝読書は、落ち着いた授業環境をつくることに役立っている」とする生徒を90%以上にする。	・立腰の意義と効用について、集会等において生徒の理解を深める。 ・読書活動の推進については、司書教諭、学校図書館事務員の指導と支援のもと、生徒会の活動を活性化させる。このことを通じて、生徒自らが読書の楽しさや有用性について気づき、学ぶ機会を増やす。	B	・「立腰や朝読書は、落ち着いた授業環境をつくることに役立っている」とする生徒が90%を超えた。 ・貸出冊数は昨年度を上回り、読書に親しむ生徒が増えた。 ・生徒会図書部の「図書館祭り」等の活動を通して図書室に足を運ぶ生徒が増えた。	・立腰の意義と効用について、集会や授業で折に触れて話し、生徒の理解を深めたい。 ・読書活動の推進については、司書教諭、学校図書館事務員の指導と支援のもと、生徒会図書部の活動をさらに活性化させたい。それらの取組を通して、生徒自らが読書の楽しさや有用性について気づき、学ぶ機会を増やしたい。	図書館教育

③学校体育・学校保健等の充実によって健やかな体を育み、生徒の逞しい成長を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と生活習慣（「早寝、早起き、しっかり朝ごはん」運動）を通して、自己管理能力の育成ができたか。	・「早寝、早起き、しっかり朝ごはん」運動は、自分の健康や体づくりに役立っていると思う生徒の割合を93%以上にする。	・生徒に対して、生徒会生活体育部を中心として、生徒への啓発活動を行なう。 ・保護者に対して、PTA総会、地区懇談会、面談等を通して、基本的な生活習慣の確立が子供たちの心身の健全な発達に有効であることを伝えるなどの啓発活動を行っていく。	B	・「早寝、早起き、しっかり朝ごはん」運動は、自分の健康や体づくりに役立っていると思う生徒は96.2%と目標を上回った。また、朝食の喫食率調査でも全校平均94.6%と高い水準を維持できている。 ・定期的に「保健便り」や「給食便り」等を行うことを通じて、健康・体づくりに関する情報発信や啓発することができた。 ・一方でスマートフォン所持率やSNSの利用率は上昇し、健康面でも悪影響が懸念される。	・生徒会生活体育部の活動と連携を図り、生徒の自発的な取組になるよう啓発活動を行なう。 ・保護者に対して、地区懇談会、面談等を通して、基本的な生活習慣の確立が子供たちの心身の健全な発達に有効であることを伝えるなどの啓発活動を更に工夫する。	保健

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目

4 本年度のまとめ・次年度の取組

学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	学校課題を明確化し、組織的・効率的に対応できたか。	・PDCAによる課題発見や素早い対応等によって、業務改善が進んだとする教職員を80%以上にする。	・職員会議や校内研修会等を通して、常に学校の課題を明確化し確認すると共に、教職員の職務を意識しながら組織的・効率的に予防的対応及び業務改善を図る。	A	・会議中に話題を焦点化して話し合うことや、資料を早めに準備して、企画委員会で検討したものを会議に上げることを意識するようになって、会議の時間が短縮された。また、職員室での声かけが成果を上げ、帳簿の整理、提出も期限を守ってできる職員が増えている。 ・「PDCAによる課題発見や素早い対応等によって、業務改善が進んだ」と回答した職員は93%であり、目標を大きく上回っている。	・今後も同様の対応を継続していくことによって、さらなる業務改善に努めていきたい。	総務
------	--------------------	---------------------------	--	---	---	--	--	----

前年度までの研究指定を受け、本年度は学力向上推進校として、引き続き授業改善の研究に取り組んだ。1学期から全員で研究授業を公開し合い、効果的な授業の導入について意見交換を行った。また、2学期と3学期の2度にわたり、先進校より内野宗長校長を招いて授業改善研修会を開き、そこでも全員が授業公開を行った。さらに、湊小学校とそれぞれの授業を参観し合うなどの連携を通して、授業改善の方向性をそろえようと、小中の連絡をよりスムーズにすることも成果を上げている。
職員の仕事改革の意識が高まり、業務の効率化などに取り組んだ結果、不要な残業が確実に少なくなっていることも評価できる。
いじめ問題への対応などの生徒指導や特別支援教育においても、一人一人の生徒のニーズをとらえた対応を行ってきたが、今後もさらに生徒理解を進め、よりきめ細かい対応ができるようにしたい。
次年度に向けて、研修会で学んだことを常に意識しながら、さらなる授業改善に取り組むとともに、本校の特色でもある地域に根差したボランティアなどの取組も継続していき、学校教育目標である「他者を尊重し、21世紀を逞しく生き抜く力」を育てたい。